

「ぜんそくさん、ありがとう」(発行・愛育社)巻末で最新の使用方法などを専門医が解説。帯にスピードスケード金メダリスト清水選手。右は読み聞かせの様子。



点滴の時間は、ぜん息友達との楽しい時間  
「学校の後、父親が車で都心の小児病院まで送ってくれていました。父親はその病院の近くで高校の教師をしていたのですが、そこから一度自宅に帰り、また病院へ。点滴が終わって家に帰るのはもう夜中ですから、本当に大変だったと思います」  
そんな父親や、ときには寝ないで看病してくれる母親からたくさん

愛をもらったと、夢ら丘さんはいう。そしてもうひとつ、病院には大勢の「ぜん息友達」がいたのだ。みんなと一緒に点滴を受けた時間は、学校の友達にはわかってもらえない病気のつらさやうとうしさをまぎらわす、楽しい時間だった。  
「点滴の間って、本当に長くて退屈で。だからみんなでおしゃべりしたり、本を読んだり、宿題したり(笑)。絵を描くのが大好きだったから、白い壁をキャンバスに見立てて、空想の絵を描いたりしていました」  
こうして夢ら丘さんは、両親の愛に支えられ、友達と励まし合いながら、「将来、絶対に画家になる」という輝かしい夢を育てていった。  
「ぜんそくさん、ありがとう」と  
大学入学前、夢ら丘さんはぜん息治療が熱心に行われているという金沢の病院へ入院を決めた。  
「その頃にはもう小児病院ではぜん息友達を見かけなくなっていて。私だけが治らない、私だけが残っちゃったって、不安になったんです」  
金沢でわかったのは、ぜん息は知識をきちんと持ち、薬の使い方をマスターすれば、確実にコントロール

# ぜん息だからこそ得られたものは、私にとって財産。だからぜん息に「ありがとう」って今、心から言える。



世界各地で活躍中の、画家の夢ら丘実果さん。物心ついたときからぜん息、しかも重症という中で、つらい闘病生活を送ってきたといいます。そんな体験から、06年に絵本『ぜんそくさん、ありがとう』を出版。医療や教育現場で活用されるとともに、自らも病院や学校に赴き、絵本の読み聞かせを行っています。

## INTERVIEW 画家・絵本作家

# 夢ら丘実果さん

### ぜん息の女の子が夢を叶えたサクセスストーリー

かわいいうアクリル画、やわらかな色の挿絵。『ぜんそくさん、ありがとう』は、とてもメルヘンチックな絵本だ。だが内容は、挿絵のような夢の世界ではない。主人公の「みかちゃん」はぜん息で、男の子にかかわれたり、教室のすみにもぼつんと立っていたりと、いつも淋しげだ。そんなみかちゃんが次第にぜん息とうまく付き合えるようになり、やがては結婚・出産し、夢だった画家になるというお話だ。もちろん、夢ら丘さん自身の体験談である。  
「ぜん息は、本人の努力と家族や周りの人たちの理解と協力が重要な病気です。ですから、この病気をもちとよく知ってほしい、そして夢や希望を持ち続けることがぜん息をよくするパワーになるんだっていうことを、絵本で伝えたくったんです」



『ぜんそくさん、ありがとう』は、ぜん息の子ども達や家族が明るく前向きに過ごすきっかけになるようにと出版された。子どもと一緒に保護者も学べる絵本として好評だ。  
「こんな病気がなければ、みんなと一緒に遊べるのにな」  
夢ら丘さんがぜん息と診断されたのは、わずか2歳のとき。それ以来、保育園時代、そしてその後の小学校でも、夢ら丘さんの脳裏にのみがえるのは保健室の白い壁。「つまんないな、淋しいな」「こんな病気がなければ、みんなと一緒に遊べるのにな」と思いながら、保健室で過ごした淋しい思い出だ。  
「私の小さい頃は吸入ステロイド薬がなかったから、最終的には病院で点滴を受けるしかなかったんです。もしあの頃に吸入ステロイド薬があったら、全然違う小学校人生があったのになって思います(笑)」  
小学3年生の時、都心から空気のきれいな郊外へと引っ越したが、今度は花粉症を併発してしまい、病状は芳しくなかった。学校も休みがちだった彼女を支えたのは、全力で彼女を守る両親、そして病院で出会った多くの「ぜん息友達」だった。

できる病気だということ。その後、病院での指導のもと、症状がコントロールできるようになった夢ら丘さんは、ようやくぜん息に「ありがとう」といえるようになったという。  
「両親にはすごい愛情を与えてもらって、とても感謝しています。そんな愛を感じられたこと、ぜん息友達、そしてすばらしい医療スタッフに巡り会えたことすべてが、私にとってかけがえのない財産なんです！」  
現在は、本業である画家、絵本の制作にいきりみながら、命の大切さを伝える絵本『カーくんと森のなかまたち』の読み聞かせ活動に忙しい夢ら丘さん。癒しの絵を描き続けながら、これからも多くの人に、ぜん息で培った強い心を伝えてほしい。

### ぜん息のみんなへ!

ぜん息だと、やりたいことがあってもできなかったり、くやしい思いや嫌な思いをすることもあるよね。でも、ぜん息だからこそ得られるものもたくさんある。それは友達だったり、家族、病院の先生や看護師さん、学校の先生、そんなみんなからもらえる、やさしい気持ち。だから不思議とがんばる力もわいてくる。みんなも、ぜん息だからってけっしてあきらめないで! 治る人もいるし、ぜん息は敵じゃない。あなたの友達だと思って、仲良く上手につきあっていってくださいね。

### PROFILE

夢ら丘 実果 ●むらおか みか  
都立芸術高等学校、青山学院大学に学び、93年より画家の活動開始。全国の百貨店や世界主要都市にて展示会多数。2007年、タイ国王陛下御生誕80周年記念・メモリアルポストカードにガーデンの絵が選ばれる。Heart Art in TOKYO 2008第11回エイズチャリティ美術展にて東京都医師会賞受賞。「癒しの画家」として、花が咲き香るガーデンの絵を中心に、猫の作品等を制作している。  
http://www.mika-muraoka.com

